

「京都への恋文」 京都美食賞

京都への恋文とは

(一社)京すずめ文化観光研究所が公募された「京都への恋文」も今回で5回目となります。

京都が京都であり続けるために、心に浮かぶ京都の姿について想うこと、感じることを「京都への恋文」として募集を行いました。京都が百年後もその魂を携えたまちであるために、時代が変わっても自然と心を通わせて暮らす原点を見失わずにいたいという願いが込められています。

京都への恋文には、「京都への恋文大賞」をはじめ、「ほのぼの賞」や「感動賞」、「ピリリ辛口賞」などいろいろな賞があり、その中の一つに食にまつわる「京都美食賞」があります。

今回の「京都美食賞」は、和歌山市在住の松木園 紗絵様が受賞されました。

京すずめ文化観光研究所 京都への恋文

京都美食賞受賞作品

「京都ってなんか、私らとおなじ関西やのに、都感出してきて感じ悪いわあ」。生まれも育ちも京都以外の関西人である私の、京都に対する第一印象はこんな感じやったで。ちょっとした僻みやったんかな。まさか、こんなに京都大好きになるとは。だって、京都って、風情ある古都ってだけでなく、ラーメン、パンを始めとしたB級グルメも美味しいし、関西の良さもしっかり残してるんやもん。気取ってるんやなくて、品が滲み出てるんやな。やっぱり、京都、めっちゃ好きやねん。

松木園 紗絵 和歌山県和歌山市



受賞者（松木園 紗絵様）スピーチより

京都というと上品でちょっとお高くとまっているイメージを持っていたけど、関西のグルメ番組や情報雑誌で美味しそうなの京都のパンや京都の町中華、京都のラーメンを見ることがたくさんあり、私の食は「京都」に支えられていると思いました。今回の恋文には、私には「京都」がないとやっていかれへんという気持ちを書かせていただきました。

審査委員長 井上章一先生の講評とピアノ演奏

後半は、井上先生からの講評とピアノ演奏がありました。先生の楽しいトークと素敵な演奏を聴きながら、和やかなひと時を過ごしました。



◆京すずめ文化観光研究所

<https://kyosuzume.or.jp/>